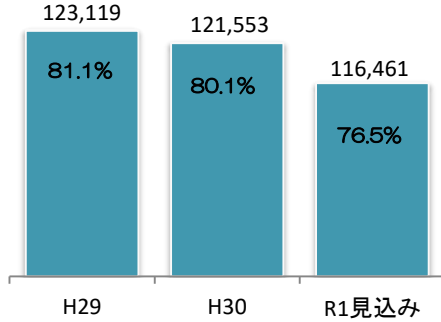
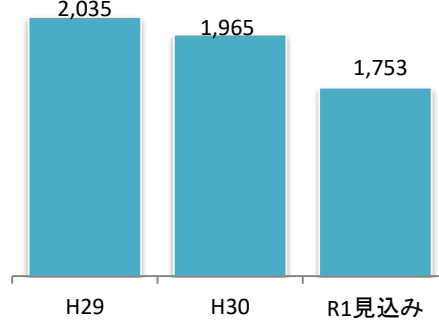


## 令和元年度の決算見込について

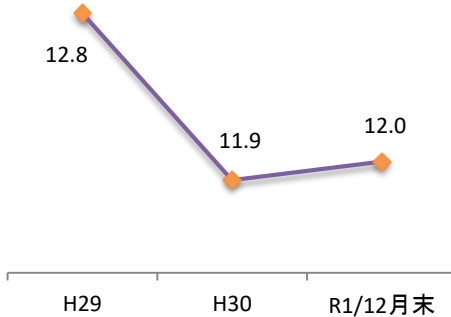
入院患者数（人）と病床利用率



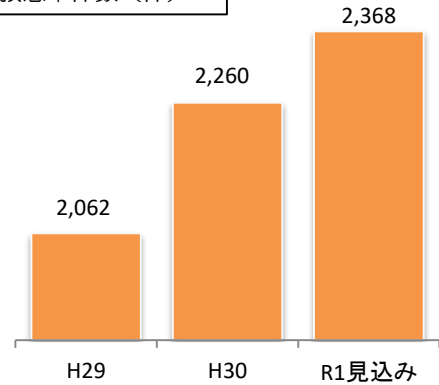
手術件数（件）



一般病床平均在院日数（日）



救急車件数（件）



令和元年度の主な取組

## ①給与削減の継続（令和2年10月まで）

医師・看護師・コメディカルなどへの給与削減の継続。R元年度は1億4,800万を削減予定

## ②電気供給契約の入札

契約の透明性確保と費用の削減を目的に、新電力も参入可能な指名競争入札を実施。R元年10月から令和2年9月で1,040万円（税抜き）の効果。

## ③ゴールデンウィークの開院

地域の医療需要を支えるため、10連休のうち5月1日及び2日の2日間を開院。外来患者数1,812人。外来収益3,600万円。

## ④病院まつりの初開催

専門的かつ高度な知識を持つ医療スタッフや高度医療機器など、当院が有する魅力を多くの方に伝え、理解いただくこと。また、人材育成や健康増進といった市の施策の推進に一定の役割を果たしていくこと等を目的に10月6日（日）に初開催。来場者数約2,500人。

## ⑤病院機能評価の認定

「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践」など4領域、89の評価項目から構成される病院機能評価の更新（平成16年度の初認定から3度目の更新）。

## ⑥救急診療科の設置

旭川医科大学からの医師の派遣により、救急診療科を新たに設置。救急外来のほか集中治療室における集中管理の充実及び当院の救急診療のスキルアップが図られた

## ⑦弁護士による未収金の回収

未収金の回収体制の強化と発生を抑制を目的に、これまで病院職員が直接行ってきた未収金の回収業務を新たに弁護士に委託。

年度当初から危機感を抱き経営改善に当たってきたが、産婦人科入院休止やイメージの悪化もあり、全体的な患者の減に歯止めをかけることができなかった。

資金不足比率10%（10億円）を超過する見込み

一般会計から3億円の繰入れ実施に向けて、補正予算を議会に提案する予定。

	R1当初予算	R1 決算見込	R1 予算比較	H30決算比較
医業収益 (千円)	10,622,878	9,418,937	▲1,203,941	▲689,671
医業費用 (千円)	11,453,470	10,912,497	▲540,973	▲114,718
収益的収支 (千円)	483,582	▲164,534	▲648,116	▲805,806
資本的収支 (千円)	▲418,681	▲415,294	3,387	176,434
当年度資金収支 (千円)	119,176	▲454,323	▲573,499	▲341,150
当年度末資金残高 (千円)	▲758,240	▲1,249,945	▲491,705	▲454,323
延べ入院患者数 (人)	126,270	116,461	▲9,809	▲5,092
病床利用率 (%)	82.9	76.5	▲6.4	▲3.6